

令和3年度 塩川駅周辺の整備に関する説明会 ニュースレター

喜多方市役所 都市整備課事業管理係 令和3年7月1日(木)

塩川駅の東西を結ぶ 歩行者用通路である東西自由通路と東西駅前広場及び駅舎を一体的に整備するため進めている、「塩川駅周辺整備事業」の概要と進捗状況、及び東西自由通路・東西駅前広場等の設計案についての説明会を開催しました。
*「塩川ふれあい会館」を含めて「塩川駅・駅舎」と表現しています。

令和3年度 塩川駅周辺の整備に関する説明会 の開催報告

R3.7.1 (木) 18:30～
於：ふるさと会館 2F

説明会は、次のような内容で行いました。

1. あいさつ
2. 説明 (1) 塩川駅周辺整備事業の概要・進捗状況の説明
(2) 東西自由通路・東西駅前広場等の設計案の説明
3. 質疑応答 / その他 (自由通路幅員確認、模型確認)



こんな意見が出ました



自由通路の構造や幅員 について

Q：自由通路の**防犯対策**はどのようなものになるか。

回答

死角を補うためのミラー、防犯カメラの設置、外から自由通路内が見える構造とすることを検討しており、これから行う実施設計で内容を詰めていく。

Q：自由通路の**高さ**は 3.0m も必要なのか。

回答

建築限界を確保するために 3.0m は必要となる。

Q：自由通路の**幅員**が 2.5m では狭いのではないか。

回答

2.5mは手すりの内側での距離であり、壁の間の距離はもう少し広くなり、**自転車を押した人と歩行者のすれ違いでも十分な隔離が保てる**計画としている。



*塩川駅よりも人の往来が激しいと思われる「二本松市の安達駅(利用者700人/日)」は幅員2.5mで整備されている。

*塩川駅は、利用者264人/日となっており自由通路幅員2.5mは十分な幅員を確保していると判断している。

床に張ったテープで幅員2.5mを確認しました!

設計案全体 について

Q：自由通路と線路の位置関係や、電車を利用する際の動線はどうなるのか。

回答 図面や模型にて説明。

Q：自由通路が完成すると、迂回していた場合と比較してどのくらいの時間短縮となるのか。

回答 半分くらいに短縮できると考えている。



模型を使いながら設計案の内容を確認しました！

Q：エレベーターの規格はどうなるのか。

回答 規格は24人乗りのものを設置する予定である。自転車が乗る場合は最大2台までとなる。基本的に自転車は東西それぞれの広場に設置する駐輪場に駐輪し、駅を利用してもらうことを想定している。

Q：セメントターミナルはなくなるのか。

回答 JR貨物の線路は撤去するが、トラックでの輸送で運営しているためセメントターミナルは現状のままとなる。

今後の予定 について

Q：自由通路の基本設計と実施設計の内容の違いはなにか。

回答 基本設計は基本条件の整理、主要な構造形式や線路などからの隔離等、変更がない事項の決定がメインとなっている。実施設計は外観などの細かい意匠の決定、基礎や構造物に関する詳細な計算による型式の決定、防犯対策、工事として発注できる図面の作成や数量の算出を行う。



活発な意見交換が行われました！

Q：自由通路の整備はいつ完了するのか。

回答 5年計画で国から事業の採択を受けているため、R7年度に完了する予定である。

Q：地区全体へ整備の周知はするのか。

回答 喜多方市のホームページで塩川駅周辺地区都市再生整備計画を公開している。ホームページで公開しているという周知や、その他の周知方法についても検討したい。